

歌劇「セヴィリアの理髮師」序曲 (ロッシニ曲)

ト X カ ニ ム 指 揮
ニ ム コーダ・フィルハーモニック管絃團

「セヴィリアの理髮師」はボールドマルシムの三部劇に基き、スザルビーニの楽団に、ロッシニが作曲した二幕三場の喜歌劇。ロッシニ (Guiseppino Rossini, 1789-1868) 二十四歳の一八一六年一月、僅か半月足らずで完成されたと傳へられる。同年二月五日ローマのアルジェンチーナ劇場で初演以來、世界各国の舞臺に上場、その豊饒さとユーモアとにより、ロッシニの傑作として定評あるものであります。ロッシニの歌劇は三十七の多きに達するが、しかし現在上演されるものは「セヴィリアの理髮師」と、稀に「ウィルブム・ナル」位であります。

歌劇の筋は頗る簡單です。アルマヴィダ伯爵は、ロジナを愛してゐる。このロジナには後見人のバルトロ博士が付いてゐて、これがまた、彼女と密かに結婚を願んでゐる。そこで、アルマヴィダ伯爵は村の理髮師で苦勞人のアイガロを説きつけて、女に逢ふやうに手筈を廻らし、龍騎兵に假装して女の家に入込んだが、守衛に捉まつてしまふが、そんなことでは、へこたれず、今度は音樂教師の代理の如く装ひ、先生は病弱だからとて、再びやつて来る。と、そこへ本當の先生ドン・ベンリオが現はれ伯爵は這々の顔で逃出したが、この時早くも女と既落の手筈を決めてしまつた。一方後見人のバルトロ博士は伯爵には袖に懐妊があると嘘をついて、ロジナに伯爵を許めさせ、自分と結婚の約束をさせる。いよいよ既落の日、彼女は憤慨しながら伯爵に逢つたが、却つてバルトロが策略を弄したことが分り、結局二人の戀人は公證人呼んで結婚することになった。

ND 26